

# 令和5(2023)年度県立高等学校入学者選抜の結果について

令和5年度県立高等学校入学者選抜は、全日制課程の特色選抜が2月8日(水)及び同月9日(木)、一般選抜が3月8日(水)、また、定時制課程のフレックス特別選抜が3月8日(水)、一般選抜が3月14日(火)に実施された。これらの受検・合格状況は下の表に示したとおりである。

## 1 生徒募集定員の総枠について

令和5(2023)年3月の県内中学校卒業見込者数17,430人(前年比110人増)を考慮し、全日制課程の定員を11,475人(前年比80人増)とした。

## 2 令和5(2023)年度入学者選抜について

### (1) 特色選抜

特色選抜については、全ての全日制課程高校58校114系・科で実施された。特色選抜においては全ての高校で面接を実施しており、40校88系・科では作文を、16校24科では小論文を実施した。また、学校独自検査は2校2科で実施しており、同じ2校2科で学校作成問題を実施した。

### (2) 傾斜配点、面接等

昭和61年度から一般選抜(学力検査)の評価方法の弾力化を図り、教科内傾斜配点を実施している。実施については、各学校・学科の特色及び入学後の生徒の進路等を配慮して決めるものであり、今年度は3校3科で国数英の3教科により実施した。また、小山高校の数理科学科については、昨年度と同様に、数学の得点を1.5倍にする教科間の傾斜配点を実施した。

一般選抜(学力検査)受検者に対する面接は平成元年度から導入しており、今年度は22校70科で実施した。

海外帰国者・外国人等の受検に関する特別の措置については、特色選抜と同時に行うA海外特別選抜で28名が合格した。

定時制課程においては、満20歳以上の志願者は、学力検査を行わず、作文をもってこれに代えることができる。この制度では、1名が合格した。

以下、各教科の学力検査問題(全日制)について、出題の方針及び結果の概要について述べる。なお、各問の正答率は全日制課程受検者1,000名を抽出して調査した結果であり、完全正答者についての割合である。

<表> 受検・合格状況の推移

	令和5(2023)年度				令和4(2022)年度				令和3(2021)年度			
	全日制		定時制		全日制		定時制		全日制		定時制	
	特色選抜	一般選抜	フレックス特別	一般選抜	特色選抜	一般選抜	フレックス特別	一般選抜	特色選抜	一般選抜	フレックス特別	一般選抜
募集定員	11,475		560		11,395		560		11,475		560	
受検人員	4,828	8,657	173	226	4,766	8,887	157	187	4,874	8,985	148	157
受検倍率	1.74	1.08	1.73	0.50	1.74	1.11	1.57	0.41	1.82	1.11	1.48	0.35
合格人員	3,162	7,481	108	217	3,122	7,582	108	186	3,082	7,777	108	156
合格倍率	1.53	1.16	1.60	1.04	1.53	1.17	1.45	1.01	1.58	1.16	1.37	1.01

※ 受検倍率=受検人員÷定員、合格倍率=合格人員÷合格人員

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校国語科の指導内容に即し、基本的な言語に関する知識・理解、適切に表現する能力、正確に理解する能力を総合的に評価できるようにした。
- 2 生徒の多様な学力の実態に応じ、言語に関する事項についての知識及び理解の程度を評価できるようにした。
- 3 生徒の学習や日常生活に関連があり、内容に偏りのない平易な文章を読んで、表現者の立場や考え方を捉えたり、あるいは作品の描写や登場人物の心情を読み取ったりするなどして自分の考えをまとめて表現する能力を評価できるようにした。
- 4 古典については、親しみやすい内容の古典を素材に、基本的な読む能力を評価できるようにした。
- 5 作文については、自分の意見の根拠を明確にして適切に書く能力を評価できるようにした。

結果の概要

1 は、言語に関する知識と理解度、言語感覚の確かさや言語運用能力をみるものである。言語に関する単なる知識の確認にとどまらず、言葉の意味やきまりを確認する機会を通して、言語生活の向上に役立てることを意図して出題した。

1の漢字の読みの問題は平均正答率が91.4%、2の漢字の書きの問題は平均正答率が74.7%であった。漢字の読みは、全体としてよく読めていたが、(5)の「抑揚」の正答率が67.8%であった。漢字の書きは(2)「防ぐ」が89.8%で最も正答率が高く、最も正答率の低い(4)「祝福」が56.7%という結果であった。日常生活で使用する語彙の確実な定着を今後も期待したい。

4の俳句の表現技法に関する設問の正答率は75.3%であり、よく理解していると思われる。

2は、「今昔物語集」を素材として出題した。民衆のことを第一に考えて政治を行う主人公の姿を描いた場面を取り上げた。歴史的仮名遣いや動作の主体を答える問題、本文に関する内容などを問う問題を出題した。

1の歴史的仮名遣いは、正答率が85.5%とよく読めていた。また、5の本文の内容と合うものを選ぶ設問においても、60.6%という正答率であり、本文の内容を捉えることができていた。

主語を補いながら読み進める古文の学習の特徴を念頭に、行為や動作の主体をおさえ、話の流れを概括する学習や、登場人物の言動の内容や意味を捉える学習等の継続が重要である。また、言語文化を継承するという観点からも、古文特有の言葉に注目したり、話の面白さを味わったりするな

ど、多くの古典に親しむ機会をもち、現代に息づく古典の価値を理解することが大切である。

3は、松木武彦の「はじめての考古学」を素材として出題した。複雑な形や文様をもつ縄文土器が、社会関係の中で心理的機能を果たしていたことについて論じた文章である。

自分の言葉で答えを記述する設問2と5(Ⅱ)の部分正答を含む正答率はそれぞれ65.9%、59.9%であった。記述問題においては、本文の語句を用いて論理的に説明する力を身に付けるとともに、書くことに対する前向きな姿勢が必要となる。

説明的な文章を読解する上では、筆者が本文全体を通して伝えようとしていることを正確に読み取る力を養っていく必要がある。そのためには、読み取った内容を自分の言葉でまとめたり、論理の展開について考えたりする学習を取り入れることも効果的である。

4は、篠綾子の「江戸寺子屋薫風庵」を素材として出題した。主人公が寺子屋で学ぶ子供たちとのやりとりを通じて、教師としての役目を果たせていた喜びを感じている場面を取り上げた。

6の主人公の様子から心情を読み取る問題の正答率が65.8%とやや低かった。文脈に即しながら適する答えを見つける力を身に付けることが求められる。

文学的な文章では、グループ活動等において、各自の読みの交流を図ることに加えて、解釈の妥当性を検証し合うような学習が重要である。判断の根拠を探して話し合ったり、表現や描写をもとに登場人物の言動の意味を考えさせたりする学習活動によって、確かな読みの育成につなげていきたい。

5の作文は、小学六年生に向けた学校紹介の実施方法について、条件に沿って内容を適切に書く能力を評価するものである。

テーマに対する適切な具体例、自分の考えと理由を関連づけて適切に表現することを求めている。普段の生活の中で、身の回りの出来事に対する意識を高め、考える習慣を身に付けるとともに、読み手の立場に立って自分の意見を表現する訓練をしていきたい。

<令5(2023)>

国語学力検査結果集計表

(全日制課程受検者から1,000名を抽出して集計)

問		題	正答率
1	1	(1)	99.4%
		(2)	97.1%
		(3)	95.4%
		(4)	97.2%
		(5)	67.8%
	2	(1)	78.1%
		(2)	89.8%
		(3)	56.7%
		(4)	62.3%
		(5)	86.6%
	3	(1)	99.8%
		(2)	83.5%
		(3)	79.6%
	4	(1)	75.3%
		(2)	48.7%

問		題	正答率
2	1		85.5% (86.1%)
	2		69.9%
	3		6.4% (24.3%)
	4		64.5%
	5		60.6%
3	1		69.1%
	2		11.4% (65.9%)
	3		92.6%
	4		57.3%
	5	(I)	
(II)			6.8% (59.9%)

問		題	正答率
4	1		97.7%
	2		84.3%
	3		61.3%
	4		87.9%
	5		2.6% (20.5%)
	6		65.8%
5		(97.3%)	

※ ( ) 内は部分正答も含めた割合

**出題の方針**

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえて、地理・歴史・公民の各分野から相互の関連にも留意して出題した。
- 2 各分野において基礎的・基本的内容を出題し、社会的事象に関する基礎的知識についての理解の程度をみようとした。
- 3 地図、文献、図版、写真、統計資料などの様々な資料から必要な情報を読み取り、適切に表現する力をみようとした。
- 4 各分野において論述問題を出題し、社会的事象を多面的・多角的に考察し、適切に表現する力をみようとした。

**出題分野・解答形式別の問題数・配点の内訳**

	地理的 分野	歴史的 分野	公民的 分野	合 計
選 択	11(22)	11(22)	8(16)	30(60)
記 述	2( 4)	2( 4)	4( 8)	8(16)
論 述	2( 8)	2( 8)	2( 8)	6(24)
合 計	15(34)	15(34)	14(32)	44(100)

( ) 内の数字は配点

**結果の概要**

1 は、地理的分野において、日本と世界の国々との関係や、日本の各地域を素材として、自然環境と人々の生活の関わり、地域の特色などについての理解の程度をみる問題である。

3 (6) は、豊橋市における園芸農業の特徴について、資料を読み取り、適切に表現する力をみるもので、正答率は 25.4%であった。

2 は、地理的分野において、南アメリカ州を素材として、自然環境と人々の生活の関わりや産業の特色などについての理解の程度をみる問題である。

7 は、南アメリカ州の都市問題について、複数の資料を読み取り、適切に表現する力をみるもので、正答率は 12.1%であった。

地理的分野の学習において、位置や分布、人間と自然環境との相互依存関係などに着目し、資料を活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、意見交換したりするなどの活動を充実させていくことが必要である。

3 は、歴史的分野において、古代から近代までの貨幣を素材として、政治の変遷や、貨幣経済の広がりに伴う社会の変化などについて、理解の程度をみる問題である。

7 は、地租改正を行った理由について、知識を基に、複数の資料を読み取り、適切に表現する力をみるもので、正答率は 4.5%であった。

4 は、歴史的分野において、近世以降のメディアの歴史を素材として、日本と諸外国との関係、各時代の特色や時代の転換となるできごとなどについての理解の程度をみる問題である。

4 (1) は、文化の大衆化について、複数の資料を読み取り、適切に表現する力をみるもので、正答率は 6.2%であった。

歴史的分野では、各時代を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現する学習が重視されている。単元の最後に時代の特色を捉える学習活動の充実をお願いしたい。

5 は、公民的分野において、選挙に関する会話を素材として、日本の経済や、国や地方の政治のしくみなどについての理解の程度をみる問題である。

7 は、衆議院議員選挙の課題について、知識を基に、資料を読み取り、適切に表現する力をみるもので、正答率は 29.9%であった。

6 は、公民的分野において、持続可能な社会の実現に関連する社会的事象等を素材として、国内外の人権保障や平和への取り組み、国際経済などについての理解の程度をみる問題である。

7 は、食品ロス削減への取り組みについて、複数の資料を読み取り、適切に表現する力をみるもので、正答率は 24.6%であった。

公民的分野では、習得した知識や概念、技能を活用し、政治、法、経済などに関わる多様な視点に着目して社会的事象について考えたことを説明したり、現代社会の諸課題の解決に向けて自分の考えをまとめて論述したり、議論などを通して考えを深めたりするなどの学習活動を充実させ、思考力等の育成を図ることが求められる。

今後も社会科の授業では、課題を追究する活動を充実させ、学んだ知識・技能を活用したり、社会的事象について多面的・多角的に考察したり、構想したりする力を育成することが求められる。

〈令5〉

社会学力検査結果集計表

(全日制課程受検者から1,000名を抽出して集計)

問	題	正答率	
1	1	34.8%	
	2	68.7%	
	3	(1)	92.4%
		(2)	65.9%
		(3)	70.5%
		(4)	48.0%
		(5)	45.8%
		(6)	25.4% (82.7%)
2	1	17.1%	
	2	51.0%	
	3	25.0%	
	4	63.8%	
	5	41.7%	
	6	40.2%	
	7	12.1% (59.1%)	

問	題	正答率	
3	1	29.7%	
	2	34.0%	
	3	24.5%	
	4	(1)	35.5%
		(2)	49.8%
	5	70.9%	
	6	77.3%	
7	4.5% (36.1%)		
4	1	77.5%	
	2	50.6%	
	3	(1)	71.7%
		(2)	52.6%
	4	(1)	6.2% (72.4%)
		(2)	66.2%
		(3)	56.2%

問	題	正答率
5	1	8.0%
	2	54.4%
	3	29.6%
	4	45.9%
	5	44.9%
	6	12.6%
	7	29.9% (52.2%)
6	1	68.1%
	2	49.5%
	3	18.4%
	4	74.7%
	5	34.0%
	6	53.6%
	7	24.6% (79.1%)

※ ( ) 内は部分正答も含めた割合

# 数 学

## 出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校数学科の指導内容に即して、数学の基礎的・基本的な知識及び技能、数学的な思考力・判断力・表現力等を総合的に評価できるよう、数と式、図形、関数、データの活用の4領域から出題した。
- 2 数と式の領域では、数の四則計算や文字式、方程式の問題を通して、数学全般に関わる基礎的な技能の習得状況を評価し、また、問題解決のための立式、計算及び説明を記述させることにより、基礎的・基本的な知識及び技能、数学的な思考力、判断力、表現力等を評価できるようにした。
- 3 図形の領域では、図形の計量問題や基本的性質に関する問題及び証明問題を通して、基礎的な概念や性質に気づき、筋道を立てて説明し表現する能力を評価できるようにした。
- 4 関数の領域では、関数の基礎的・基本的な問題や発展的な問題を通して、知識及び技能、数学的な思考力、判断力、表現力等を評価できるようにした。
- 5 データの活用の領域では、データの分布、確率に関する基礎的・基本的な問題を通して、知識及び技能、思考力、判断力、表現力等を評価できるようにした。
- 6 数と式、図形、関数、データの活用のうち、いくつかの領域からなる融合問題を通して、事象の中に潜む関係や法則を数理的に考察し、数学的な思考力、判断力、表現力を用いて、問題を解決する能力を評価できるようにした。

## 結果の概要

1 は、各領域における基礎的・基本的な知識及び技能の習得をみる問題であり、平均正答率 65.5%であった(昨年度は 84.9%)。特に、三角形の相似比と面積比の関係の理解に課題がみられた。今後も基礎・基本の定着を図ってほしい。

2 は、数と式の領域における基礎的な知識及び技能の習得、思考力・判断力・表現力の定着をみる問題である。1 は 2 次方程式の解を正しく求めることができるかを問う問題であり、2 は教室の数と参加者の人数を正しく捉え立式し、方程式を解く問題であり、3 は整数の性質の証明に関する問題である。正答率は 1 が 56.2%、2 が 12.8(34.4)%、3 が 8.0(54.8)% ( ( ) 内は部分正答も含めた割合) であった。一つ一つの内容はいずれも基本的な内容である。与えられた条件を正しく理解し、表現・処理する力の定着が望まれる。

3 は、図形の領域における知識及び技能の習得、思考力・判断力・表現力の定着をみる問題である。1 は、正三角形の内角が  $60^\circ$  であることを用いて、角の二等分線を、論理的に作図する力を問う問題である。正答率は 19.3%であった。2 は、台形から、直角三角形を見だし、線分の長さを求めたり、回転体の体積を求めたりする問題である。正答率は、(1)が 56.0%、(2)が 43.1%であった。3 は、三角形の内角の和の性質を用いて、直角三角形の合同を証明する問題である。正答率は 4.6(71.5)%であった。図形における点、線分、角の位置関係を正しく捉え、問題を解決したり、統合的・発展的に考察したりする学習活動の充実が望まれる。

4 は、データの活用の領域における基礎的な知識及び技能の習得、思考力・判断力・表現力の定着をみる問題である。1 は、5 人の生徒から 2 人を選ぶ場合の確率の問題であり、正答率は 65.4%であった。同様に確からしいことに着目し、処理する力の定着が望まれる。2 は、度数分布に関する問題であり、正答率は、(1)が 36.3%、(2)が 62.2%であった。度数分布を用いて考察する力の定着が望まれる。3 は、テストの得点のデータを統計的に処理し、考察する問題である。正答率は、(1)が 77.4%、(2)が 11.2(23.4)%であった。四分位数や箱ひげ図を活用し、データの分布の傾向を比較して読み取る学習活動の充実が望まれる。

5 は、関数の領域における知識及び技能の習得、思考力・判断力・表現力の定着をみる問題である。1 の(1)は、2 次関数の変域を求める基本的な問題であり、正答率は 56.7%であった。(2)は、座標平面で三角形の面積を考察する問題であり、正答率は 17.1%であった。(3)は、線分の比と座標に関する問題であり、正答率は 3.8(11.7)%であった。2 は、一次関数のグラフを活用し、ある 2 人の時間と距離の関係について考察する問題である。正答率は、(1)が 75.0%、(2)が 22.0(34.9)%、(3)が 1.2%であった。数量の関係を式で表し、グラフで表現することを通して、グラフを活用することのよさを認識できるようにし、グラフから読み取れることへの考察を交えながら、日常生活や社会の事象の考察に数学を生かそうとする態度を育むことが大切である。

6 は、タイル貼りの問題を通して、事象を数理的に捉え問題を解決するための思考力・判断力・表現力の定着をみる問題である。正答率は、1 が 63.3%、2 が 24.1(30.8)%、3 が 0.1(6.2)%であった。普段の学習から場面を的確に捉え、試行錯誤しながら粘り強く問題解決に取り組むとともに、その過程を振り返って、得られた結果の意味を考察することで、数学のよさを感じてもらいたい。

〈令5(2023)〉 数学学力検査結果集計表

(全日制課程受検者から1,000名を抽出して集計)

問 題		正答率	問 題		正答率	問 題		正答率	
1	1	89.4%	3	1	19.3%	5	(1)	56.7%	
	2	77.3%		2	(1)		56.0%	(2)	17.1%
	3	89.4%			(2)		43.1%	(3)	3.8% (11.7%)
	4	54.1%	3	4.6% (71.5%)	2	(1)	75.0%		
	5	69.1%	4	1		65.4%	(2)	22.0% (34.9%)	
	6	61.8%		(1)		36.3%	(3)	1.2%	
	7	47.8%	2	(2)	62.2%	6	1	63.3%	
	8	35.5%		3	(1)		77.4%	2	24.1% (30.8%)
2	1	56.2%	(2)		11.2% (23.4%)		3	0.1% (6.2%)	
	2	12.8% (34.4%)							
	3	8.0% (54.8%)							

※ ( )内は部分正答も含めた割合

## 理 科

### 出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校理科の指導内容に即し、エネルギー、粒子、生命、地球の4領域の学習内容から偏りなく出題した。
- 2 自然の事物・現象についての概念や原理・法則の理解や、習得した知識を日常生活や社会に当てはめて考える力をみるようにした。
- 3 観察、実験などに関する基本的な技能をみるようにした。
- 4 自然の事物・現象について、見通しをもって科学的に探究する力をみるようにした。
- 5 観察、実験などから得られた結果を分析し、解釈する力をみるようにした。

### 結果の概要

1 は小問集合であり、幅広い分野からの出題である。自然の事物・現象、観察・実験に関する基礎的な知識及び技能をみるようにした。選択問題の平均正答率が61.9%、記述問題が69.9%であった。正答率の高い問題は、7の電力から電流を求める計算問題の86.6%であった。正答率の低い問題は3であり、おもりにとはたらく重力とつり合いの関係にある力を選択する問いであり、正答率は32.9%であった。

2 は、モノコードを用いた実験を通して、音の高さや大きさを決める条件について科学的に考察する力をみる問題である。3 は様々な条件と音の高さの関係を調べるために、どの条件とどの条件を比較すればよいかを考える問題であり、正答率は59.5%であった。

3 は、霧に関する実験を通して、霧が発生する条件と身のまわりの現象を関連付けて解釈する力をみる問題である。2 は実験結果の比較から、ビーカー内の空気の状態に着目して霧が発生する条件を考察する問いであり、正答率は5.9%であった。実験結果から見いだした規則性ではなく、実験装置の説明を繰り返してしまった受検生が一定数見られた。

4 は、だ液による消化の実験を通して、結果を解釈して粒子の大きさの関係性を見だし、見通しをもって実験方法を立案する力をみる問題である。3 は実験結果を解釈して粒子の大きさの関係性を見出す問いであり、正答率は36.5%であった。4 は仮説を検証するために適切な実験計画を立案する問いであり、

中学校で学習した理科の見方・考え方を生かして考察する力が必要であった

5 は、電気分解に関する実験を通して、電流と生成物の量的関係を科学的に考察する力をみる問題である。2 は塩化銅水溶液の電気分解の化学反応式を問う内容であり、正答率は18.1%であった。化学式や化学反応式で適切に表現していない解答が見られた。

6 は、エネルギーに関する実験を通して、エネルギーの関係性を見だして表現する力をみる問題である。3 は位置エネルギーのグラフから、運動エネルギーや力学的エネルギーの関係について考察してグラフを作成する問題であり、正答率は33.1%であった。

7 は、溶解度曲線から物質の種類ごとの量的関係を見だし、物質の水への溶解を粒子のモデルを用いて微視的に捉える力をみる問題である。4 は溶質の量が異なる溶液を冷却した際の粒子モデルを考察する問いであり、正答率は11.0%だった。温度による溶解度の変化量や、溶質の量が異なると溶解度が変化すると捉えてしまった解答が一定数見られた。

8 は、植物の増え方に関する観察を通して、無性生殖と有性生殖の特徴を見だして表現する力をみる問題である。3 はジャガイモの無性生殖について、分裂の種類と遺伝子に着目し、形質が同じになる理由を表現する問いであり、正答率は21.5%であった。

9 は、月や金星の日周運動に関するシミュレーションなどの調査を通して、惑星の運動や見え方を時間的・空間的に捉えて考察する力をみる問題である。2 は月の公転や地球の自転から、満月になる日や位置、時刻を考察する問いであり、正答率は9.5%であった。3 は150日後の金星や地球の位置と金星の見え方を時間的・空間的に考察する問いであり、正答率は6.1%であった。金星と地球の公転周期を同一としたり、片方のみ公転としたりする解答が見られた。

理科の学習において、科学的な用語を理解することは大切であるが、自然の事物・現象について科学的に探究するために、仮説をもとに実験計画を立てたり、得られた結果を分析・解釈したりすることも大切である。また、学習したことと日常生活や社会との関連を結びつけて考えることも大切にしたい。そして、理科のおもしろさを感じながら、学習に主体的に取り組み、進んで科学的に探究する態度を身につけてほしい。

＜令5(2023)＞ 理 科 学 力 検 査 結 果 集 計 表

(全日制課程受検者から1,000名を抽出して集計)

問 題		正答率	問 題		正答率	問 題		正答率	
1	1	59.4 %	3	2	5.9 % (27.3)	7	1	47.3 % (47.4)	
	2	81.8 %		3	①		22.3 %	2	29.4 % (30.4)
	3	32.9 %			②		82.5 %	3	60.7 %
	4	73.5 %	③	67.5 %	4		11.0 % (24.6)		
	5	63.4 % (78.2)	4	1	66.5 %	8	1	53.5 % (83.1)	
	6	81.9 % (87.0)		2	22.6 % (58.7)		2	76.4 %	
	7	86.6 % (86.6)		3	36.5 % (36.5)		3	21.5 % (58.4)	
	8	47.6 % (47.8)		4	①	51.7 %	9	1	61.8 % (65.5)
2	1	72.8 % (73.7)	4		②	62.6 %		2	9.5 % (33.6)
	2	19.0 % (21.1)			③	53.1 %		3	6.1 % (29.3)
	3	59.5 % (90.1)	5	1	95.9 % (96.2)	4		55.2 %	
4	①	77.7 %		2	18.1 % (26.3)	6	1	34.9 % (42.8)	
	②	75.6 %		3	68.5 %		2	33.1 % (85.8)	
	波形変化	36.0 % (45.9)	1	34.9 % (42.8)	3		33.1 % (59.4)		
3	1	①	70.8 %	6	2	33.1 % (85.8)			
		②	64.6 %		3	33.1 % (59.4)			

※ ( ) 内は部分正答も含めた割合

出題の方針

- 1 問題の内容が中学校学習指導要領の趣旨に沿うものとし、聞く、読む、話す、書くことの4領域にわたって出題するように努めた。
- 2 中学校学習指導要領に示されている基礎的・基本的な内容について、多く出題するようにした。
- 3 聞く力については、まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を聞き取ったり、概要や要点を捉えたりする基礎的な力をみるようにした。
- 4 表現する力については、与えられた場面やテーマに沿って英語で適切に伝える力をみるようにした。
- 5 読む力については、比較的長い文章を読み、書かれていることの概要や要点を文脈に沿って読み取る力をみるようにした。

結果の概要

1 は、身近な事柄を素材にした、音声によるコミュニケーションの場面を扱った聞き方の問題で、3問構成とした。問題全体の平均正答率は、49.4%であった。1は短い対話を聞いて必要な情報や要点を捉える力をみる問題である。4問の平均正答率は76.3%であった。2は長めの対話を聞いて、必要な情報を把握する力をみる問題である。3問の平均正答率は29.2%であった。3はまとまりのある英文を聞いて、その要点を捉える力をみる問題である。3問の平均正答率は33.8%であった。(2)は聞き取った内容を別の表現に言い換えて正答を導く問題で、平均正答率は6.5%、部分正答を含めると7.0%であった。「聞く力」の向上のためには、一部の情報を聞き取ることに終始せず、聞き取った情報を整理し、話し手が伝えたい内容の概要や要点を捉えられるようになることが大切である。

2 は、基礎的・基本的な言語材料についての理解度をみる問題である。1は基礎的・基本的な言語材料を活用した好きな映画に関する紹介文を素材にしている。6問の平均正答率は72.8%であった。2は語句を並べかえ、語と語のつながりなどに注意して正しく英語で表現する力をみるための問題である。3問の平均正答率は63.6%であった。

3 は、じゃんけんをはじめとする手を使った遊びについての説明文を素材として用いた読解問題で、説明文の概要や要点を捉える力をみる問題である。4問の平均正答率は39.4%、部分正答を含めると46.4%であった。2は、様々な手を使

った遊びについて読み取り、流れに合うように英語を書く問題である。平均正答率は4.2%、部分正答を含めると4.5%であった。それぞれの遊びの特徴を理解した上で、共通点や相違点等を考えながら答えを導き出すことが求められた。説明文を読む際には、話の論理展開を意識しながら、各段落や英文全体の概要や要点を的確に捉えることが大切である。

4 は、物語文を素材として用いる読解問題で、物語文の内容を文脈に沿って読み取る力をみるものである。今年度は、同級生の姿や発言から「言葉の力」に気付いた主人公が成長していく様子を題材とした。5問の平均正答率は20.6%であった。4は、メール文を読み、登場人物の心情を選択肢から選ぶ問題である。正答率の平均は45.3%であった。出来事や登場人物の心情を読み取り、状況を整理しながら読むことが大切である。

5 は、対話の流れを把握しながら要点を捉える力、対話や与えられた資料等に基づき英文を完成させる力及びテーマに沿って英語で自分の意見や考え等を正しく伝える力をみる問題である。言語の実際の使用場面により近い題材及び問題設定となるようにしている。服をはじめとする不要品のリサイクルやリユースに関する話題を中心とした対話文を出題した。問題全体の平均正答率は21.9%、部分正答を含めると35.2%であった。1は対話の流れを把握しながら、適切な英語で言い換える問題である。平均正答率は64.8%、部分正答を含めると69.4%であった。4は資料を参考に、文脈から判断して適切な英語で表現する力をみる問題である。3問の平均正答率は5.5%、部分正答を含めると16.3%であった。資料の内容や対話の流れを的確に把握し、適切な表現を活用して書くことが求められる。6は本文を読み、対話の流れを把握しながら要点を捉え、適切な英語の組合せを選択する問題である。正答率は32.4%であった。7は与えられたテーマについて英語で表現する力をみる問題で、「服を手放す際に、どのような手段を選ぶか」について、与えられた条件に合うように自分の考えをまとまりのある英文で述べる問題である。完全正答率は2.2%、部分正答を含めると55.2%であった。

自分の気持ちや考えを相手に伝わるように英語で書く力を育成するためには、言語材料についての理解の定着を確実に図るとともに、実際のコミュニケーションの場面を想定しながら、英語で表現しようとする取組を日頃から積み重ねることが重要である。

<令5(2023)> 英語学力検査結果集計表

(全日制課程全受検者から1,000名を抽出して集計)

問		題	正答率	問		題	正答率	問		題	正答率
1	1	(1)	95.0%	2	1	(1)	68.3%	4	1	7.2% (16.9%)	
		(2)	79.7%			(2)	87.1%		2	13.9% (40.4%)	
		(3)	69.5%			(3)	62.3%		3	7.5% (7.8%)	
		(4)	60.9%			(4)	71.9%		4	45.3%	
	(1)	30.7%	(5)		83.3%	5	29.0%				
	2	(2)	30.5%		(6)	63.6%	1	64.8% (69.4%)			
		(3)	26.3%	(1)	83.1%	2	42.6%				
		(1)	44.0% (45.8%)	2	(2)	34.8%	3	25.8% (47.8%)			
	(2)	6.5% (7.0%)	(3)		72.8%	(3)	0.6% (6.1%)				
	3	(3)	50.9% (53.7%)	3	1	77.6%	5	4	(4)	3.0% (16.3%)	
		2	4.2% (4.5%)		2	4.2% (4.5%)			(5)	12.8% (26.6%)	
		3	22.0% (49.6%)		3	22.0% (49.6%)		5	12.7% (20.4%)		
4		53.9%	4		53.9%	6		32.4%			
						7		2.2% (55.2%)			

※ ( ) 内は部分正答も含めた割合